

【今回のテーマ】

『私が見つけたアップサイクル』の宿題の中で、たくさんの発見や取り組みがありました。未来新聞にていくつか紹介したいと思います。



世界を変えるための17の目標

■さんが見つけたアップサイクル

革の端材 → バッグやジュエリーケースにUPCYCLE

■さんが見つけたアップサイクル

廃棄消防ホース → バッグにUPCYCLE

タイトル アップサイクルブランド「+carat」
1年3組1番 氏名 [redacted]

「宝石をまとう」をコンセプトに女性に輝きを「+」するアップサイクルブランド「+carat」。この+caratを詳しく調べてみました。

まずアップサイクルの特徴として、「捨てるものや使われていない物を別の物に変えて、価値を付けるというものがあると思います」。+caratさんは「捨てるもの、使われていないものを宝石に変えて、それが当たり前になった世界をみてみたい」とおっしゃってましてアップサイクルを進めているのが分かりました。

② そして+caratさんを調べてみようと思った理由になった+caratさんのとてもいい所は、とてもオシャレということ。資料①や②のように、とてもオシャレな物が売られていたからこれが捨てられようになっていたものや使われていない物で作られているとはどうも思えないオシャレぶり。ぜひ私も買いたいなと思われました。なんとなく作りかえられた物、アパレルしている...みたいな古いイメージが私にも少しあったのが、今回調べてみてイメージがガラッと変わったので自分で調べて知り、知ったりするのはものすごく大事な事なんだと分かりました。

革のバッグ



タイトル UPCYCLE LABについて
2年2組22番 [redacted]

20年にスタートした、廃棄消防ホース、廃棄シートベルトをアップサイクルしたバッグを展開するブランド「UPCYCLE LAB」。消防ホースを再利用したスパイラルトートバッグ(¥20,000)は、消防検査ボックスの中で10年間人々の生命・財産を守る役割を果たしたホースと、消防ホース製造時に発生するロス材(未使用の立端材)も再利用。

消防ホースの縫製加工には、高い技術力が必要になるため、国内の信濃県のある工場で熟練の職人がひとつひとつを手作業でしっかりと製作。廃材は色や柄を指定して回収する事ができないので、商品によって表小柄が異なるのも特徴のひとつ。表材の製造から表縫製、糸縫製まで糸も国産のメイドイン・ジャパン。すべての工程が表材を活かす事が可能な縫製技術を持つ職人のハンドメイドで行われている。

ごみ箱

+carat

+carat(プラスカラット)は、「宝石をまとう」をコンセプトに端材を用いたアイテムを展開するアップサイクルブランドです。ブランド名は「端材にも女性にも輝きをプラスすること」に由来しています。端材は宝石と同じくらい価値あるものに変えることができます。+caratであなたも日常に輝きをプラスしませんか?



■さんが書いてくれたように、端材から生まれたとは思えない素敵な製品ばかり。捨てずにアップサイクルするだけでなく暮らしに輝きをプラスしてくれていますね!

左記のコンセプトより、未利用革(革の端材)を用いたアップサイクル製品を販売している。バッグに使われる未利用革は一つずつ異なるため、どれ一つとして同じバッグは作れないそうです。見え方や風合いが異なる「オンリーワン」となるのも魅力ですね。

(プラスカラットさんHPより)

UPCYCLE LAB

ビルや公共施設などに備え付けられた消防ホースの9割は作られたまま一度も使われることなく新品同然のまま廃棄されています。UPCYCLE LABでは主にこれら未使用のまま廃棄される消防ホースを使って商品を作っています。引き取った消防ホースは洗浄・乾燥させた上で縫製工場へ。熟練の職人が手作業で裁断・縫製し1つ1つ丁寧に作り上げています。



(アップサイクルラボさんHPより)